おざわ良央

よしなか

神奈川県議会議員 小田原市選挙区

おざわ良央県議は次のような主張を発表しました。

プロフィール

1973年9月19日小田原市荻窪に生まれる。
現在43歳。
地元の芦子小学校、白山中学校卒業後、東海大学付属相模高校、東海大学工学部動力機械工学科を卒業。家業である建設業、機械ステンレス加工業の事業を継承。
2015年4月の神奈川県議会議員選挙に初挑戦で当選。現在1期目。妻と二人の子供、そして両親、祖母の四世代同居中。
現職
環境農政常任委員会 委員
経済活性化・産業振興特別委員会 委員
神奈川県卸売市場審議会 会長
自民党神奈川県連 小田原市第5支部 支部長

県政で結果を出す。

清新な感覚と若い行動力で

新人の若い県議会議員として一年数ヶ月が経ちました。新しい出会いや体験の連続で、多忙の中に身を置きながらも、心身の隅々まで、市民の皆様の思いや悩みが沁み入るような有意義な日々でした。

県政という広い視点から、小田原市や県西地域の現状を見ると、いわゆる”東高西低”というアンバランスが、地域の活力や都市基盤整備だけでなく、福祉や医療、教育等、市民の日々の暮らしに直結する部分にまで及んでいることに気付かされます。

しかし一方、プラス思考で私達の郷土を考えると、歴史・文化、自然・環境に恵まれ、気候温順で人々の優しさや地域の暖かさは格別です。全てに余裕の無い今、大都会に住む人々にとって、この魅力は大変大きいのではと、強く実感もします。

そこで県議会本会議での初めての一般質問や、予算委員会、文教常任委員会での質問等の議会活動では、地元目線の主張や質問に偏りすぎるか、と自問自答しながらも、地域の願いや市民の皆様の考えや感覚を、率直に県政に反映させたいと活動してまいりました。

人口減少と少子高齢化の同時進行という荒波の中で、地域の活性化やお年寄りの平安、子供達の幸せな未来、と多くの問題が山積しています。本市と南足柄市との行政連携問題も新しい大きな課題でしょう。

五十年、百年先を見据えた小田原市や県西地域づくりに、おざわ良央は清新な感覚と若い行動力で、市民の皆様と共に邁進してまいります。今後共のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

神奈川県議会議員　おざわ良央（よしなか）

私の重点政策

わくわく 元気な小田原

小田原の活性化のために、人々の熱い思いやアイデアを生かす、「参加型のまちづくり」を推進します。

きらきら 教育の未来

教育改革実現のために、「人材の宝庫・小田原」の特色ある公立学校づくりと、教育の質の向上を目指します。

いきいき 暮らし最優先

超長寿社会での福祉や介護のあり方を実践するために、「地域に根ざした助け合いの気持ち」を見直します。

どきどき 子育てNo.1

少子化社会での子育て・教育問題には、「地域社会ぐるみ」で母親・家族をサポートする施策が大切です。

こつこつ 万一ネットワーク

防災対策に、先人の知恵や専門家の知識に加えて、身近な人々の共助の「万一ネットワーク」づくりを進めます。

YOSHINAKA PRESS Vol.7

2016秋

県政実感
県政レポート

県のチカラを県西

おざわ良央（よしなか）県議は県民・市民

自由民主党神奈川県議会議員団の一員として、初めて県議会本会議場において一般質問に立ちました。
黒岩知事、担当局長らとの主な発言要旨です。

本会議一般質問（平成 28 年 2 月 24 日）

小田原市、南足柄市の連携が動き出す

人口減少、少子高齢化がすすむ県西地域における市町間の合併、及び広域連携の必要性に対する県の認識を問い、黒岩知事は、十分な議論の上積極的に広域連携をすすめていただき、支援もすると答弁。

安全安心な食料供給

収益性の高い農業を展開できる圃場※や農業基盤の整備を問い、黒岩知事は、都市農業の持続的な発展を支える生産性の高い農地をめざすと答弁。

※ほじょう…作物をつくる田畑

発展する小田原漁港

災害に強い漁港、地元水産業の活性化を問い、環境農政局長は、小田原漁港は県西地域における漁業と水産物流通の拠点として重要な施設であり、その機能強化を図ると答弁。

国内外から観光客を神奈川県に

県内の多様な観光資源を活用した観光振興を問い、黒岩知事は、これまで磨き上げてきた観光資源に加え、新たな視点で観光資源を掘り起こし、旅行業者等に働きかけると答弁。

想定外をなくす津波対策

地震発生から 2、3 分で、10 メートルを超える津波が予想される沿岸市町と一体となった対策を問い、黒岩知事は「最大規模の地震」の想定死者数の半減と市町の避難対策や情報発信体制を支援して、災害に強い神奈川をめざすと答弁。

県西部と静岡・伊豆方面を結ぶ道路ネットワークを急げ

真鶴道路の交通渋滞対策、相模湾沿いの災害時における対応力の強化のためにも、新しい道路ネットワーク計画の県主導での検討を問い、黒岩知事は地元市町と検討をすすめ、静岡側との情報交換を行いながら強化に取り組むと答弁。

小田原市内　都市計画道路の整備促進

市内道路整備事業の円滑な推進を求める声を届け、県土整備局長からは、順次用地は取得中であり、穴部国府津線は鉄道横断高架橋を計画。又城山多古線は坂下トンネル付近に送電用鉄塔があり、東電と協議をすすめ、早期に工事を着手したいと答弁。

神奈川県議会本会議場

MEMO【神奈川県地震防災戦略】

県の最大規模の地震の想定	
死者	31,550 人
このうち津波による死者	12,530 人（約 4 割）

おざわ良央（よしなか）の発想

関東随一の天守閣を持つ城下町小田原の北条五代祭り、北条五代観光推進協議会（小田原市、箱根町、伊豆の国市、八王子市など）が取り組む北条五代の大河ドラマ化、箱根湯本の早雲寺、韮山城のあった伊豆半島、後北条氏と三浦氏の抗争の舞台となった鎌倉、三浦半島などを組み合わせたストーリー性のあるツアー企画など、さまざまな工夫の中から地域活性化を図るべきではないでしょうか。

県議会文教、予算委員会で、おざわ良央（よしなか）県議は

みんなの声をキッチリお届けしてきました

Q はおざわ良央県議の質問、
A は行政側答弁の概要です。

文教委員会　平成 28 年 3 月 17 日

おざわ良央は、自民党県議として付託された諸議案に対して、県民目線で賛成の意見発表。

主な案件は、県立高校改革、県立学校施設再整備計画（新まなびや計画）、県立社会教育施設の老朽化対策、グローバル化に対応した英語教育、特別支援学校の充実、インクルーシブ教育の推進、県立高校の平成 28 年度入学者選抜（採点ミス）などです。

文教委員会　（平成 28 年 3 月 7 日）

新時代の図書館を

Q おざわ良央
コスト削減等を意図して図書館の外部委託が出てきているが県直営の理由は？

A 生涯学習課長
司書等のレファレンス※能力が非常に高いものであると評価しています。

Q おざわ良央
新しい図書館は PFI 手法導入で整備するのか？

A 生涯学習課長
予備調査の結果を踏まえ、慎重に検討します。

※レファレンス…資料を利用される方のお手伝いをすること

MEMO

県立図書館蔵書収蔵数（平成 26 年度末）
909,440 冊（満杯は約 10 年後と予想）

文教委員会（平成 28 年 3 月 1 日）

絶対失敗させない覚悟で

Q おざわ良央
県立高校改革では、再編、統合に当たっては、地域社会に波乱を巻きおこすことのないように慎重に対応していただきたい。

A 県立高校改革担当課長
学校関係者はもとより、専門的知見からの意見など、より幅広く意見を聞く懇話会を設置し、すすめてまいります。

県立高校の耐震化は平成 30 年度までに完了

Q おざわ良央
県立高校の耐震化率全国ワースト 1 を解消するために、大規模だけではなく小規模補修にも力を入れて欲しい。

A まなびや計画推進課長
おおむね平成 30 年度までには大規模補強棟の耐震化は完了を見込んでおり、12 年間で 1,500 億円の事業規模で、集中的に方針を定め、一気に工事を進めてまいります。

みんなが笑顔になる体育センター

Q おざわ良央
2020 年 3 月に改装工事が完成目途の藤沢市内

地域でフル回転させる

目線が原点

ご意見・ご要望をお聞かせ下さい
〒250-0042 小田原市荻窪 166
TEL 0465-35-0001 FAX 0465-35-4666

県議会でのおざわ良央県議の発言全文は、神奈川県議会ホームページからご覧いただけます。 神奈川県議会 検索（会議録検索システムより）

予算委員会（平成 27 年 10 月 7 日）

こどもたちや家族の重荷を減らそう

1,770 人もの対象者がいる小児慢性特定疾病医療費助成制度をしっかりと全県内ですすめてほしい。

サービス向上、経費節減を前へ

指定管理者制度を導入して 10 年。サービスの向上や経費面で一定の効果が得られているが課題もあります。より質の高いサービスを提供できるように工夫すべきです。

……

文教委員会（平成 27 年 12 月 14 日）

情報オープンの改革

県立高校改革実施にあたり、一番大切なものは、改革の主人公というか中心である県立高校の生徒さん、また保護者や、教職員のみなさんへの情報提供です。生徒や県民の目線に立った改革をすすめるべきです。

……

文教委員会（平成 27 年 10 月 9 日）

先進的な教育の推進

神奈川からより多くのグローバルな人材を輩出することをめざし、※国際バカロレア校の設置をすすめて欲しい。

※国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム
世界 140 以上の国、地域で 4631 校が認定（平成 28 年 8 月現在）

……

文教委員会（平成 27 年 10 月 2 日）

すばらしい人間を育てる県立高校改革

学校の成績だけではなくて、やっぱり人間としてすばらしい人間を育てるような学校にしていただきたい。地域創生にとっても期待されるコミュニティスクールとして県立高校が地域の核となって、今まで以上に役割が大きくなることを期待しています。

……

文教委員会（平成 27 年 9 月 30 日）

スポーツ振興の条例制定へ

食・運動・社会参加から未病を治していく健康寿命日本一をめざす取り組みや運動スポーツに対して、スポーツ行政の一元化も含め、独自の取り組みをすすめる条例を関係機関と調整してまいります。

（生涯学習部長答弁）

……

文教委員会（平成 27 年 7 月 8 日）

地域に根ざした学校づくり

国も積極的に動いているコミュニティスクールを導入し、学校と保護者、地域の住民が知恵を出しあい、みんなが一体となって、より良い教育の実現をめざすべきです。

……

文教委員会（平成 27 年 5 月 21 日）

箱根山の風評被害を失くそう

火口周辺警報は、正確な情報に基づいて、十分に安全が確保されているということを周知徹底していただき、箱根にたくさんの人が来ていただきたい。

にある県立体育センターは、オリンピックパラリンピックの事前キャンプにも活用される。県民に喜ばれ、使い勝手のよい施設となるよう整備を。

A 体育センター・総合教育センター再整備担当部長
青少年も高齢者もアスリートもスポーツ初心者も障害のあるなしに関わらず、全ての県民の皆さんに喜んでいただけるような施設をすすめてまいります。

……

予算委員会（平成 28 年 3 月 15 日）

在宅介護の充実にチカラを

Q おざわ良央
県内では 55,600 人以上といわれる介護サービスを利用せずに介護をしている家族にはどのような支援をしているのか。

A 高齢社会課長
介護サービス情報の公表制度のほか、介護に携わるご家族のサービス選択の支援をしております。

MEMO

県内要支援 要介護認定者	360,257 人
介護サービス利用者	304,592 人
（内在宅サービス 230,090 人 75.5%）	
未利用者	55,665 人

成長産業を県内各地で展開へ

Q おざわ良央
近年、大企業の事業所や工場等の撤退が多い県西地域等の実情を考慮し、県内で偏りが出ないようにセレクト神奈川 100 ※をすすめてほしい。

A 産業労働課長
県内各地に受け皿となる産業用地を確保し、地域格差が生じないよう誘致をすすめてまいります

※セレクト神奈川 100 とは
今後成長が見込まれる未病、ロボット、エネルギー、観光産業などの市場をリードしていくような先進的な企業を県外、国外から 100 件誘致し、県内産業を活性化させること

現場の声をしっかりと聞く、中小企業支援を

Q おざわ良央
企業 OB などの社会貢献活動のひとつである小規模企業応援隊が活動することで、中小企業の活性化にどのように効果があるのか。

A 中小企業支援課長
小規模企業者に対して最も適切な支援施策を紹介し、その補助金等の申請づくりまでしっかりとお手伝いすることを想定しております。

Q おざわ良央
神奈川県の経済を支えているのは事業所数の 99%を占める中小企業。しっかりとした支援をしていくことで地域経済は活性化していくと考えるが。

A 産業労働局長
さまざまな支援策があり、企業にわかりやすく周知をして、有効に活用してもらうことが重要と認識しております。

女性の幸福度ナンバーワンをめざそう

Q おざわ良央
女性の幸福度ランキング※でトップをめざすには、黒岩知事がトップダウンで本気で、徹底して意識改革をはかり、男性が女性の負担を軽減するよう仕向けていく必要があるのでは。

A 吉川副知事
おざわ議員のお話のように、こうした取り組みは意識改革ですので並大抵のことではありません。トップダウンで徹底してやる、本気でやるしかないのではないでしょうか。

※ 2014 博報堂レポートでは神奈川県の女性の幸福度ランキングは全国 9 位。トップは沖縄、首都圏では唯一トップテン入り。

おざわ良央（よしなか）の発想！

女性の幸福度ランキングをあげるには、女性も男性もともに活躍できる社会づくりが必要であり、意識改革をどのようにすすめるのかが大事です。

2016秋
YOSHINAKA PRESS Vol.7

ガンバレ！おざわ よしなか 良央県議

おざわ良央県議に寄せられた皆さまの声の一部をご紹介します。

「身近な問題から取り組んで」「地域に元気がないと将来が不安」「福祉や医療問題をよろしく」など皆さまの声、期待を受け全力疾走。

発行：おざわ良央事務所
HP: ozawayoshinaka.com
〒250-0042　神奈川県小田原市荻窪 166
TEL: 0465-35-0001　FAX: 0465-35-4666

27才・主婦・城山

余り県政には興味がなかったのですが、良央さんを応援してから、新聞やテレビで県政に注意するようになりました。特に子育て中ですから、保育問題や子供の突然の病気の事等が心配です。若いのですから身近な問題から取り組んでほしいです。

55才・パート（女性）・栢山

良央県議を応援しています。私達には県政も市政も区別つきませんが、親しみ易いお人柄ですから、良央さんは何でも気軽に相談できて嬉しいです。若い人達が幸せに安心して暮らして行けるような社会をしっかりと実現して欲しいです。

76才・無職（女性）・前川

見違えるようにたくましくなって、良央さん頑張っていますね。毎日毎日が勉強の連続でしょうから、まずは健康第一ですね。いつも見守っていますよ。

44才・サラリーマン・板橋

同世代の仲間として応援してます。落ち着きも出てきて、立派になったと思います。いつ逢っても昔と変わらない穏やかな良央君で嬉しいです。私達も今まで以上に県政に注目して、少しでも彼の手伝いをしたいです。

68才・自治会役員・酒匂

地域のイベント等で良くお逢いします。いつも変らないにこやかで明るい姿が印象的です。私は自治会の防災の責任者ですが、防災対策の一層の強化をお願い致します。特に緊急時での県や市、そして警察や消防等の防災機関には大いに期待してます。

73才・農業・片浦

高齢の両親のこと、私達夫婦のどちらかでももし倒れたら、といろいろ心配だらけです。福祉や医療問題を宜しくお願いします。良央さんも四世代同居とか、是非我が事として積極的に取り組んで下さい。

51才・自営業・中町

日々商売に打ち込んでいて思うのですが、小田原がもう少し賑やかになって欲しい。地域の元気が無いと将来が不安です。県や市も、目に見える支援をして欲しい。良央県議頼みますね。

シリーズ 北条五代 その2

「義を重んじ民を慈しむ、理想の国づくり」

“義”

小田原北条二代の氏綱が、病の床で三代氏康に遺したとされる置文がある。「北条氏綱公御書置」である。

「**大将によらず、諸侍までも義を専らに守るべし。義に違いては、たとい一国二国切り取りたりというとも、後代の恥辱いかがは、天運尽きはて滅亡を致すとも、義理違へまじきと心得なば、末世にうしろ指をささるる恥辱は在るまじく候、・・・・・**」

権謀術数の限りを尽くし、切り取り勝手、下克上の戦国の世に、“義”の為に家を断絶させても以って瞑すべし、とまで言っている。凄まじいばかりの誇り高い理想主義である。

虎朱印

初代早雲公

これは「五箇条の御書置」の第一条であるが、第二条からは北条家当主として当然の如くの注意事項が続く。第二条「侍から農民に至るまで、全てを慈しむこと。どんな人間にも良い所はある。それを生かすのが大将の力量」、第三条「驕らずへつらわず、その身の分限を守ること」、第四条「倹約を専らにし、諸事の基にすべし」、第五条「勝って兜の緒を締めよ。敵を侮ったり、無礼なことは慎むように」（要約）。次代を心配する武将というよりも父親としての心情が伺われるような二条以下である。

北条家は早雲以来代々学問を大切にし、礼を重んじ民を慈しんだ。初代の「早雲寺殿二十一箇条」にも、人の起き伏し、立ち居振舞いから、人倫の道、文武両道、教養の事等々、微に入り細にわたって記されて、北条五代の領国支配の基いと思われるが、これらの中で「“義”を第一にせよ」という二代氏綱の遺言の重みは際立っていて、鮮烈な印象すら覚える。

“虎朱印”「禄壽應穩（ろくじゅおうおん）」

並いる戦国大名の中で、際立つ個性を放つ存在として、織田信長と、最近とみに脚光を浴びている早雲を始めとする北条五代がある。それを象徴する一例が印判である。織田信長は有名な「天下布武」の刻印を用い、諸国、諸大名を全て武力で支配すると威圧した。

対照的に北条氏の歴代当主は「禄壽應穩」と刻印された“虎朱印”を用い、「領民の財産（禄）、生命（壽）は必ず守る」という強固な意志を、領域の隅々まで知らしめた。少量の賦課でも必ず“虎朱印”を押した印判状を用いて、末端の百姓等にまで伝達され、万一、郡代、代官等が、“虎朱印”無しの勝手な指示、命令等を行った場合は、その官姓名を北条氏へ直訴できることにまで徹底した。領国経営の中に、“民政”という全く新しい視点を採り入れ、北条氏と村々・百姓達とを直結させたのである。

民衆からの強引な収奪を前提とした旧来のあり方とは明らかに異質で、“虎朱印”の印判状は当時の常識では考えられない領国、領民の統治手法であった。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

戦国武将が皆、京都を目指して天下をとろうとした時代に、先進地（西国）から学んだ知恵や経験そして反省を、未開の東国の地で活かそうとした早雲を始めとする五代。その画期的で大胆、緻密な家中統制や領国、領民経営は、“義”を重んずるという理念や“虎朱印の印判状”そして「小田原評定」「四公六民」税制等の諸制度とあいまって、関東に理想の国を創ろうとした北条五代百年の繁栄の礎となって行くのである。

私達のまちや人々の心に、今、脈々と息づいている“小田原らしさ”や“小田原人気質”の源流とも思われる史実である。